

区分・用途	
太陽光パネル用地	
変電施設	
調整池	
既存道路用地	
計画道路用地	
造成森林	
残置森林	
非変更区域	

図 2-2-5(1) 主要設備の配置計画

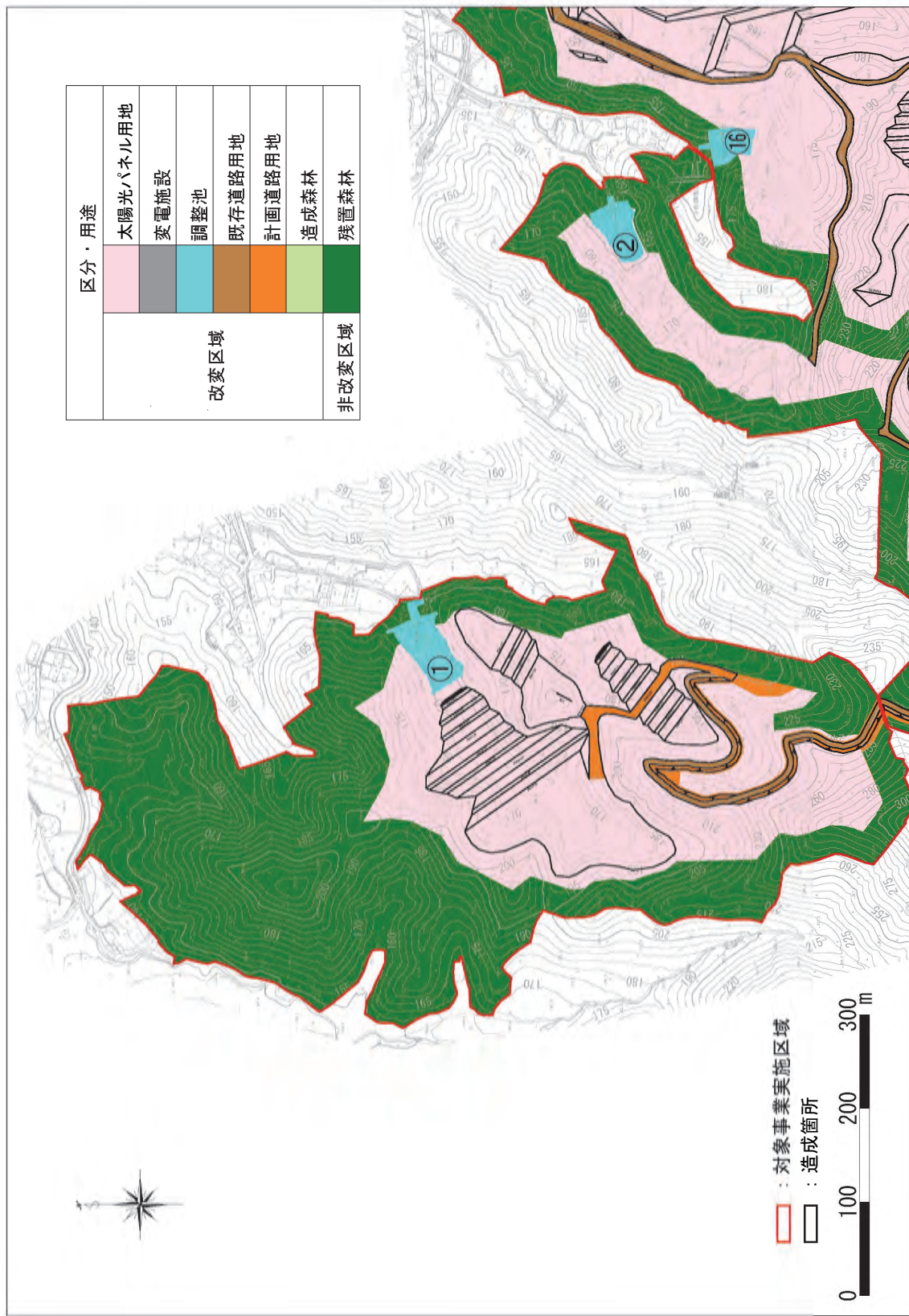


図 2-2-5(2) 主要設備の配置計画（詳細：対象事業実施区域北部分拡大）

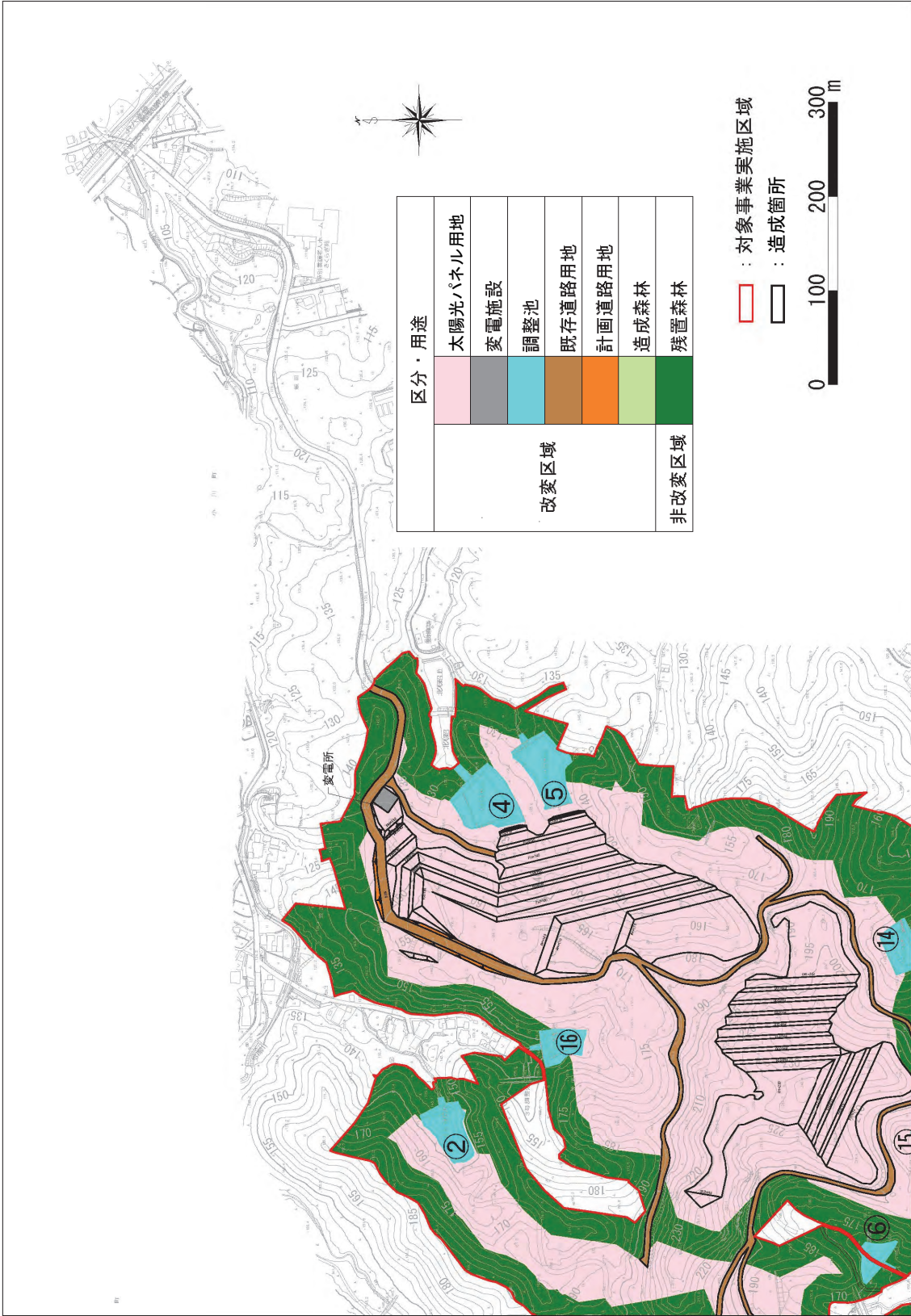


图 2-2-5(3) 主要設備の配置計画 (対象事業実施区域南東部分拡大)

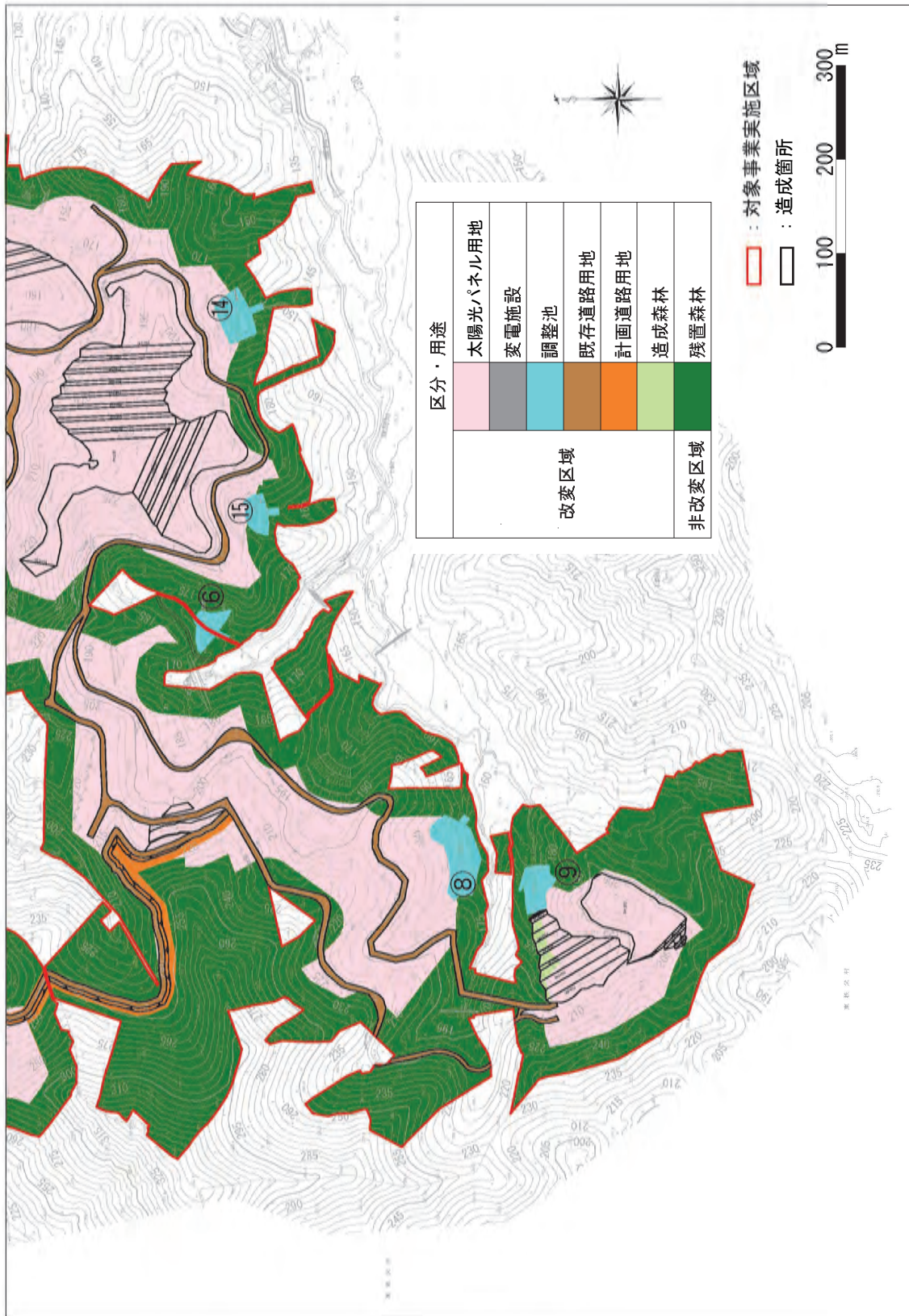
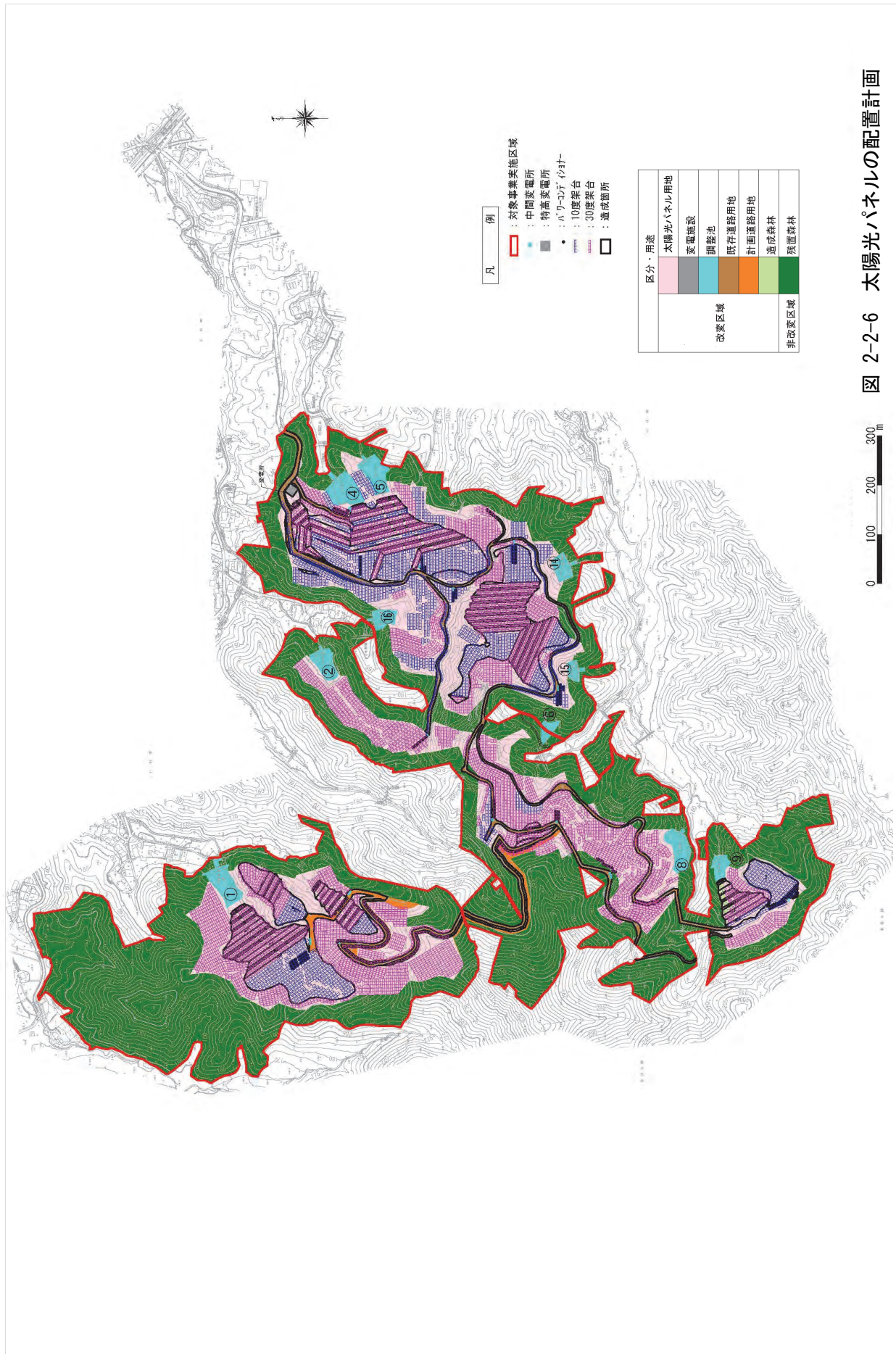


図 2-2-5(4) 主要設備の配置計画 (対象事業実施区域南西部部分拡大)

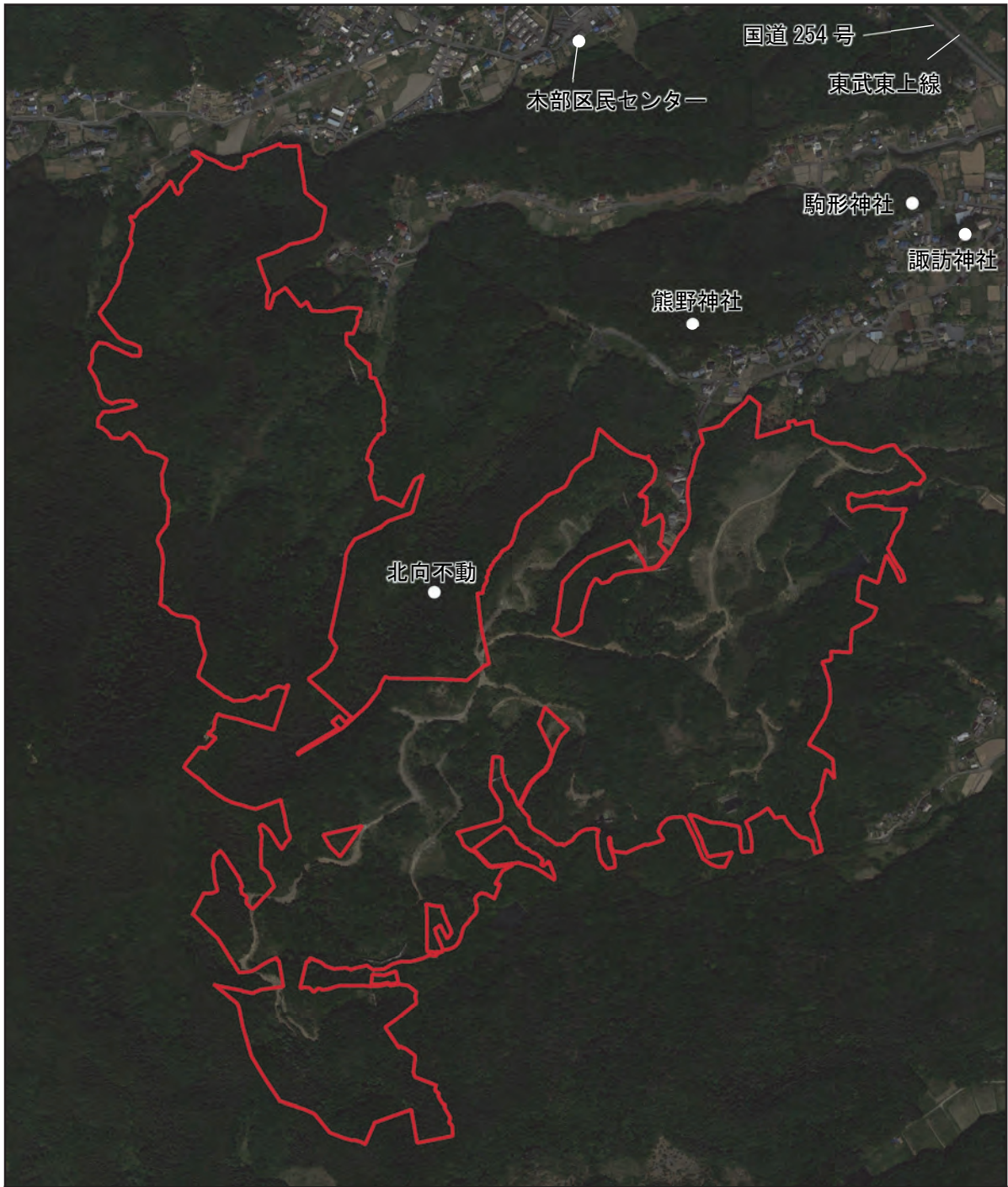



- 凡 例
- : 対象事業実施区域
  - : 中間変電所
  - : 特高変電所
  - : パワコンプレックス
  - : 10m塔台
  - : 30m塔台
  - : 遊成箇所

区分・用途	
太陽光パネル用地	家電施設
調整池	貯存道路用地
計画道路用地	造成森林
非改変区域	残置森林



図 2-2-6 太陽光パネルの配置計画



 : 対象事業実施区域



1:10,000

0 100 200 300 400 500 m



図 2-2-7 対象事業実施区域の土地利用状況

### (3) 森林保全のための土地利用計画案検討

森林伐採を極力抑え、生態系に配慮した事業を行うため、過去に着手された開発により大きな改変が行われていないと推定される対象事業実施区域北部の森林部分において、改変区域を約 8.5ha 低減させる土地利用の配置を計画した。

これは、太陽光パネルの設置計画を具体化する中で、当初導入を予定していた 450W の発電能力を持つ太陽光パネルから 545W の発電が可能な製品に切替を行ったほか、より集約した配置などを検討し、生態系への配慮と事業採算性とを比較衡量しつつ、太陽光パネル用地を縮小したことによるものである。

表 2-2-2 に、旧土地利用計画案と現在の土地利用計画との残置森林面積の比較を示す。また、図 2-2-8 に両計画の各土地利用の配置を示す。

表 2-2-2 旧土地利用計画案と現土地利用計画の残置森林面積比較

項目	残置森林面積 (m <sup>2</sup> )
旧土地利用計画案	343, 000
現在の土地利用計画	428, 300
残置森林増加面積 (現在－旧土地利用計画)	85, 300

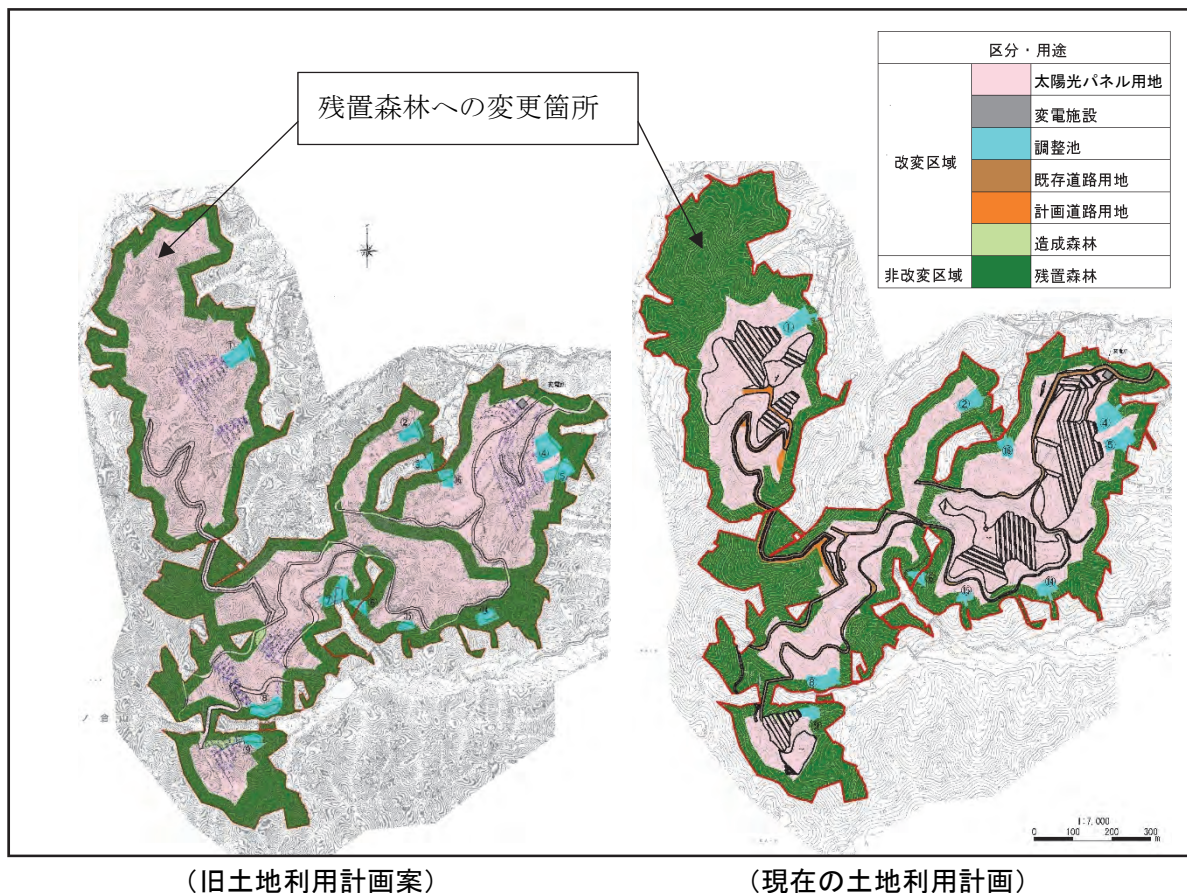


図 2-2-8 当初の土地利用計画案と現土地利用計画の比較

#### (4) 対象事業実施区域外の森林保全

対象事業実施区域に隣接する箇所に、事業者の構成社員（株式会社サンシャイン エナジー）が所有地が存在する。

この隣接箇所を図 2-2-9 に示す。

隣接箇所は、飯田川をはさみ対象事業実施区域の南側に位置している。面積は 46,039m<sup>2</sup>であり、現状は山林である。

この隣接箇所を、対象事業実施区域外の森林保全区域とし、その植生を保全し、現状の改変を行わない計画とした。

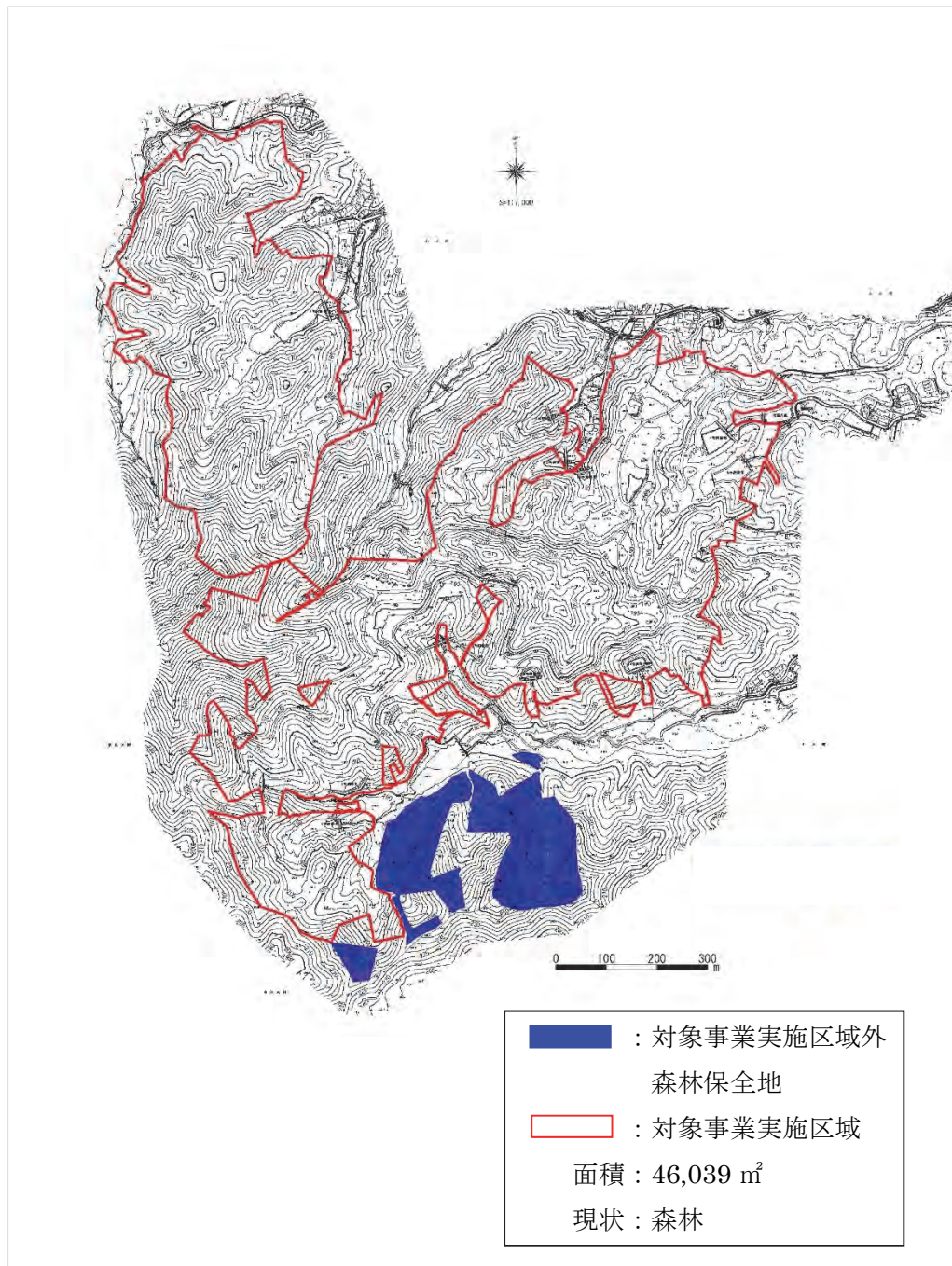


図 2-2-9 対象事業実施区域外の森林保全地